

[講演要旨] 京都大学に残る地震直後の調査記録と現地調査による 1925年北但馬地震の1927年北丹後地震被害への影響評価

服部健太郎*(京都大学大学院理学研究科)・中西一郎(京都大学大学院理学研究科)・

加納靖之(京都大学防災研究所)・渡辺周平(京都大学大学院理学研究科)

Evaluation of influence which the 1925 Kita-Tajima earthquake had on damage of the 1927 Kita-Tango earthquake
based on primary records preserved in Kyoto University and recent field survey made by present author

§1. はじめに

1925年5月23日午前11時10分頃兵庫県北部で発生した但馬地震は豊岡、城崎など円山川流域を中心に大きな被害をもたらした。この地震を受け京都帝国大学理学部地質学鉱物学教室は、小川琢治教授の指揮の下、3班に分かれて5月26日より現地調査を行った。調査範囲は、豊岡、城崎の他、玄武洞、竹野、久美浜など、兵庫県・京都府北部の幅広い地域にわたる。この調査で第3班を指揮した槇山次郎助教授自筆のフィールドノートを始めとする一次資料が、京都大学理学部の図書館から発見されている。現在京都大学所蔵であるこれらの資料には、地震の原因とされた円山川河口付近の田結断層や、久美浜湾における地盤沈下による沈水などの地形変化が詳細に記録されている。但馬地震の地球科学的研究は地震発生直後を除き、現在に至るまであまり行われていない。特に京都府側の被害に関する研究はない。京都府側には、1927年北丹後地震において多大な被害を蒙った峰山などの地域がある。こういった地域の北丹後地震の被害推定を行う上で、それより2年前に起こった北但馬地震がどれほど影響を及ぼしているかを調べた。

§2. 資料の内訳

日誌、フィールドノート、地図、写真の四種類から構成される。日誌は、原稿用紙に手書きで時間順に、地形変化や建物の被害などが記載されている。フィールドノートには、番号ごとに被害の記載がなされ、その番号は地図中に書き込まれた数字と対応している。写真については、撮られた場所を地図で確認できるものも存在している。なお、兵庫県側を主に調査した第1、2班と異なり、第3班は京都府側を主に調査しており、図1のような踏査ルートであった。

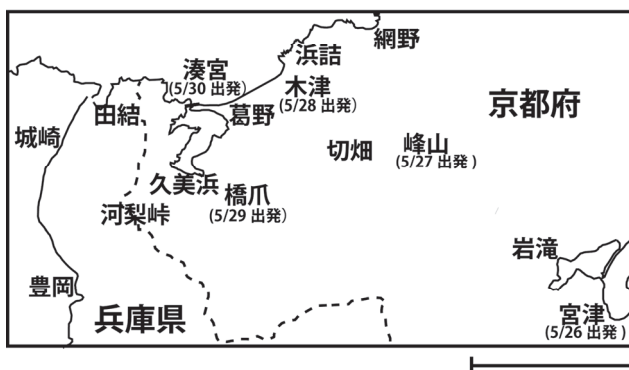


図1 第3班の踏査ルート(宮津—豊岡)

§3. フィールドノートの記載例

図1にある京都府側の地名における被害の記載例は以下の通りである。

- ・岩滝(玉田寺):「玉田寺ギョクデンジ坊さんノ墓2芋型ナル故ニ不安定ニテ土台石ノ傾キタル方ニ倒レタル問題外ナレモミナ僅ズレテキル」
 - ・網野(網野神社):「鳥居前大燈ろう倒レズ ソノ他二對ノtuff製ノモノ異状ナシ 本殿前 serpentine製ノ燈ロウハ倒レタ」
 - ・墓地(浜詰):「sandstone上 N50° W S 正面 始全部左マワリ北へ廻轉 西倒多 惣敷約一割」
 - ・久美浜(神谷神社):「一ノ鳥居前燈ろう N60W 三基ともかさとうろう 全台 落はしら 右ニ 20° (右)左無事 共にはしら以下無事」
- こういった記載に関して、当時の地図及び発表者が行った現地調査と対応させて、北但馬地震の京都府側における被害を確認した。

§4. 謝辞

本発表の一部について、平成24年度 山陰海岸ジオパーク学術研究奨励事業補助金を使用した。